

3. 1) ラペルの原理に基づいたラペルの形態は、芯地の種類により異なり、また左右の身頃により異なる。
- 2) 折り先きポイントの相違によりラペルの形態が変化し、ハ刺し方法の相違によっても形態変化が顕著である。
- 3) 3種類の刺し方を行なった場合のテクニックの相違は、第2報で示した衿付線位置におよぼすそれより少ない。

### C-19 衿の折り返しに関する研究(第3報) —ラペルの原理—

秋田聖霊女短大 ○豊間 和子  
佐藤 衛子  
高橋 紀子

1. 第2報でハ刺し前の芯地の曲げ剛さと、ハ刺し後の曲げ剛さの値から理論式を導き、ハ刺し効果を求めた。さらにハ刺し方向におよぼす刺し方の影響により、ラペルの衿付線位置が変化することが判った。第3報は、ラペルの折り返し方向における形態を原理的に考え、左右のラペルの相違について検討した。

2. 実験に用いた試料は、毛芯グループ4種類と麻芯グループ2種類である。ラペルの折り返し線角度方向とハ刺し方法は、第2報の場合と同様である。ラペルの部分の折り返し方向への自然のロール型を測定するため、Stuart and Bairdの方法\*に基づいてラペル部分の原理を解析した。

\* "A New Test for Bending Length" Textile Res, J., 36, 91, 1966.